公表　訪問先施設からの事業所評価の集計結果

事業所名
中野区立療育センターアポロ園

公表日　2026年　3月　28日

利用訪問先　88　回収数　40

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
1	訪問支援員からの助言や説明は、具体的でわかりやすく、取り入れやすいものですか。	31	6	3	・子どもの行動を細かく観察してくださっていると感じている。 ・ご家族との話し合いの内容も開示しながら丁寧に説明してくださる。 ・こちらの質問にも丁寧に答えてくださり,説明が具体的でわかりやすい。 ・困っていることを理解し,アポロでの取り組みも共有してくれる。 ・いつも寄り添って話を聞いてくださり,成長点や課題を細かく共有してもらえるのがありがたい。 ・前回からの成長や保護者の不安を具体的に伝えてくれる。 ・どう声をかけるべきか,どんな対応が望ましいかを教えてくれる。 ・子どもの状況に合った内容を教えていただけるので取り入れやすい。 ・子どもたちへの具体的な対応について話していただけるので助かっている。 ・助言や指導がわかりやすく,支援の手がかりになっている。 ・アポロでの療育の様子を聞けるのが参考になる。 ・観察力があり,具体的な様子と意見を伝えてくれるので受け入れやすい。 ・専門の先生の助言がわかりやすい。 ・一人ひとりの姿から具体的なアドバイスをいただいている。 ・困りごとへのアドバイスが欲しいのに,相槌だけで終わってしまい,助言になっていないと感じることがある。 ・就学を見据えた発達への見通しを持った助言があるとよい。 ・子どもの現状と合わない助言があると感じることがある。 ・経験の未熟さが目立つ場面がある。 ・事業者が代わった際に引き継ぎが十分でなく,子どもの状況が分かっていないように感じて不安になることがある。 ・分かりやすい時とそうでない時があり,普段の姿を伝えてもニュアンスが伝わりにくいと感じることがある。	「相槌だけで終わってしまうことがある」「助言が子どもの現状と合わないと感じることがある」「就学を見据えた見通しがほしい」「経験の未熟さを感じる場面がある」「引き継ぎが不十分で子どもの状況が伝わっていないように感じる」など、助言の質や一貫性に関する課題も挙げられた。また、訪問間隔が空きすぎることや、園・保護者・事業者間の情報共有に差が生じること、説明内容が保護者と園で異なって伝わることへの不安も示された。 　ご意見を踏まえ、今後は助言内容の標準化と専門性の向上を図り、観察内容・課題整理・具体的対応・次回までの見通しを明確に伝えることで、助言の質のばらつきを減らす。また、訪問前後の情報共有を強化し、園・保護者・事業者が同じ理解を持てるよう説明内容の統一を徹底する。 　今後も、集団保育を活かした支援方法の提案や書籍・教材の紹介、アポロ園での様子の共有など、園が実践しやすい形での助言を充実させ、園・保護者・事業者が連携して子どもの成長を支えられるよう、支援の質の向上に継続して取り組んでいく。
2	訪問支援員の支援に対する知識・技術等に満足していますか。	30	6	4	・若い経験年数の先生方には良いと感じている。 ・具体的な対応策を話してくださり、とても役に立っている。 ・専門的な知識をもとに助言いただけるので参考になる。 ・何が課題なのか整理してくれる。 ・今の支援方法についての評価や具体的な案を教えていただけて助かっている。 ・とても分かりやすく見てくださっている。 ・保育に取り入れられる遊びや絵表示の作り方なども詳しく教えてくれる。 ・子どもの特性を捉えて教えてもらえる。 ・こちらでは分からないことも教えていただけるのでありがたい。 ・お子さんの特徴に合わせて専門的な返事をいただき、納得している。 ・満足している。 ・もっと具体的な対応や専門知識を教えていただきたい部分がある。 ・もっと専門的な意見をいただけると助かる。 ・一般的な知識が中心で、強い具体性がないと感じることがある。 ・見に来ているだけで、その場の状況を話すだけになっており、アドバイスがあまりないと感じる。 ・子どもへの関わり方や保育の中での取り組みについて、より具体的に教えていただけるとありがたい。	「もっと具体的な対応や専門知識を知りたい」「一般的な説明が中心で深さが足りないと感じることがある」「その場の状況説明にとどまり、助言が少ないと感じる」といった改善を求める声も寄せられた。専門性のばらつきや助言の深度に差があることが課題として挙げられている。 　これらのご意見を踏まえ、今後は助言内容の具体性と専門性をさらに高めるため、観察内容・課題整理・具体的な支援方法・園での実践例を明確に伝える支援の標準化を進める。また、専門的な視点を深めるための研修や事例検討を強化し、助言の質の均一化を図る。さらに、園が求める「より実践的で、保育にすぐ活かせる支援」を提供できるよう、集団場面での支援方法や環境調整、子どもの特性に応じた関わり方など、具体的な提案を充実させていく。 　今後も、園と連携しながら、子どもの成長につながる支援の質向上に継続して取り組んでいく。
3	訪問支援員は質問に対して、適時・適切に回答してくれていますか。	28	9	3	・子どものことで分からないことをよく教えてくださる。 ・保育園で対応に困っていることにも丁寧に教えていただけている。 ・適切に対応してくださる。 ・回答していただいている。 ・わからないことがあれば教えていただけた。 ・満足している。 ・保護者がこの支援に満足しているのか不明で,保護者と園の架け橋になっていない。 ・カンファレンスの終了時間を伝えても時間オーバーすることが多く,質問の時間も含めて時間内に終えてほしい。 ・支援経過に応じて助言のレベルを上げていただけるとよい。 ・話が噛み合わないことがある。 ・一般的なことが多く,もっと深い部分を聞きたいのに分からなかったようだった。 ・「そうですね」「困りますよね」と同意はしてくれるが,聞きたい内容とは違うことがある。 ・担当者が代わりすぎて相談にならない。	「カンファレンスが時間オーバーし、質問の時間が確保しにくい」「支援の経過に応じて助言のレベルを上げてほしい」「一般的な説明が多く、より深い内容を知りたい時に十分な回答が得られない」「担当者が代わりすぎて相談が継続しない」といった改善を求める意見も挙げられた。 　これらのご意見を踏まえ、今後は質問への回答の質と一貫性を高めるため、事前の情報共有や担当者間の引き継ぎを徹底し、園・保護者・事業者の三者が同じ理解を持てるようにする。また、カンファレンスの時間管理を見直し、質問の時間を確保できるよう運営方法を改善する。 　今後も、園の疑問や困りごとに対して適時・適切に回答できるよう、支援の質の向上に継続して取り組んでいく。
4	保育所等訪問支援を利用したことで、課題や困りごとが解消または軽減されましたか。	26	11	3	・対象児が欠席の際は日にちを変更していただき、1人ずつ丁寧に助言をいただけている。 ・集団の中での成長にも一緒に共感していただき、保育者も見通しが持てて助かっている。 ・子どもの成長段階が一人ひとり違うことを理解できるようになった。 ・訪問で専門的な助言をいただくことで課題や困りごとが軽減されている。 ・できないこともあるが、力を与えてくれる。 ・一緒に支援を考えてくださることで支援の幅が広がっている。 ・子どもの気持ちに寄り添ったり、保護者へのアプローチができるようになった。 ・保育園での援助の仕方を肯定していただき、悩みが解消した。 ・その日から意識できる関わり方をご助言いただいている。 ・助言を保育に取り入れたことで、子どもが楽しんで過ごせるようになった。 ・その都度困りごとを聞いてもらい、対応できている。 ・運営変更後、現場の保育士からも深めた内容を一緒に考えてもらえて良かったという声がある。 ・新しい視点をいただいたり、工夫の余地を見出せる機会になっている。 ・保護者対応の部分は軽減された。保護者が前向きになった。 ・情報交換ができ、保育に生かせている。 ・保護者の心配事や園への要望を伝えていただけることで、安心感や連携につながっている。 ・自分たちがどう対応していけばよいか方向を確認してくださり感謝している。 ・保護者がこの支援に満足しているのか不明で、保護者と園の架け橋になっていない。 ・カンファレンスの終了時間を伝えても時間オーバーすることが多く、時間内に終えてほしい。 ・支援経過に応じて助言のレベルを上げていただけるとよい。 ・保育士に具体的なアドバイスがなく、悩みが解消されていない。 ・カンファレンスの内容や時間に差があり、効果的・有効なものにしてほしい。 ・ 取り入れてもすぐに結果が出ない。 ・もう少し事例を挙げていただけると分かりやすい。 ・あまり軽減されず困ったままの部分もある。 ・今まで行ってきたことと変わらず、改善が見えない部分がある。 ・園と事業者の「互いに成長させたい思い」に差があると感じる。 ・事業者からの共有をもっと園と共有していきたい。 ・課題が明確に解消・軽減されたか判断しにくい。 ・短期間で解消される課題ではないため、引き続き支援をお願いしたい。 ・解消や軽減までは至っていないが、子どもの姿の要因や方向性は定まった。	保育所等訪問支援の利用による課題や困りごとの解消・軽減については、「対象児が欠席した際にも日程を調整し、個別に丁寧な助言を受けられた」「集団の中での成長を共に喜び、保育者が見通しを持てるようになった」「子どもの成長段階の違いを理解できるようになった」「助言を取り入れたことで子どもが楽しんで過ごせるようになった」「専門的な助言により課題や困りごとが軽減された」「保育の援助方法を肯定してもらい悩みが解消した」「その日から実践できる関わり方を教えてもらえた」など、多くの場面で支援が効果につながっているという声が寄せられ、園と家庭の連携面でも良い影響が見られている。 　一方で、「カンファレンスが時間オーバーし、効果的な場になっていない」「支援経過に応じて助言のレベルを上げてほしい」「具体的なアドバイスがなく悩みが解消されていない」「取り入れてもすぐに結果が出ない」「事例を挙げて説明してほしい」「園と事業者の思いに差を感じる」「事業者からの共有をもっと園と共有したい」など、支援の質や連携のあり方に関する課題も示された。また、短期間では解消が難しい課題も多く、継続的な支援を求める声もあった。 　これらのご意見を踏まえ、今後は助言の具体性と専門性をさらに高め、観察内容・課題の整理・具体的な支援方法・園での実践例を明確に伝えることで、支援の効果をより実感できるよう取り組む。また、カンファレンスの時間管理や情報共有の方法を見直し、園・保護者・事業者が同じ方向を向けるよう連携を強化する。さらに、事例紹介や集団場面での支援方法の提案など、保育に生かしやすい助言を充実させ、課題の軽減につながる支援の質向上に継続して努めていく。
5	事業所からの支援に満足していますか。	24	11	5	・来ていただけることに感謝している。 ・保護者の思いも共有できるのでありがたい。 ・園ではフォローしきれない部分も一緒に見ていただき,子どものためにつながっていると感じる。 ・子どもに合った支援を伝えていただけるとありがたい。 ・園務との調整は大変だが,引き続きよろしくお願いしたい。 ・満足している。 ・アドバイスの内容が繰り返しに感じることがあり、集団保育だからこそ活かせる支援方法を的確に教えてほしい。 ・支援が必要な子どもの人数によって訪問回数が増減し、対応が難しい年がある。 ・以前と比べて申し訳ないが、適切な支援をお願いしたい。 ・もう少し子どもに合った支援を伝えてほしかった。 ・訪問日が数日にわたると園務調整が難しく負担が大きいので、可能であれば学期に1日でお願いしたい。 ・訪問日を増やしてもらえるとありがたい。 ・期ごとに来ていただけるとよい。 ・回数が多いと嬉しい。	「アドバイスの内容が繰り返しに感じる」「集団保育を活かした支援方法をより的確に教えてほしい」「支援が必要な子どもの人数によって訪問回数が増減し、「もっと子どもに合った支援を伝えてほしい」「訪問日が複数日に分かれると園務調整が難しいため、可能であれば学期に1日でまとめてほしい」といった改善を求める声も挙げられた。 　これらのご意見を踏まえ、今後は助言内容の質と具体性を高め、集団保育の特性を踏まえた支援方法の提示や、子どもの特性に応じた個別性の高い助言を充実させる。また、訪問スケジュールの調整方法を見直し、園務への負担を軽減できるよう、訪問日の集約や事前調整の丁寧な実施に努める。

その他のご意見	ご意見を踏まえた対応
・支援を必要とする子どもたちにとって大切な時期なので、集団を活かした関わり方や書籍の紹介などがあると嬉しい。 ・子どものことをよく見ていて、気づかない点や配慮点を丁寧に話してくれるので役に立っている。 ・助言がとても参考になる。 ・支援に通えていない子にも対応いただけるとありがたい。 ・アポロ園での様子も教えていただけると嬉しい。 ・いつも丁寧な対応に感謝している。 ・該当児への支援方法を共有でき、保育に生かせてとても助かっている。 ・保護者への説明が丁寧で、保護者が子どもを丸ごと受け止められるようになり、園の様子も想像してくれるようになった。 ・保護者理解が深まり、とてもありがたいと感じている。 ・園からの悩みに対してどのようなアドバイスをしたのか、上の方にしっかり報告が行っているのか分からない。 ・前回の訪問からかなり間隔が空いているのに連絡がない。 ・運営が変わる前の方が的確なアドバイス・連携・定期訪問がしっかりしていた。改善を求める。 ・保護者に伝えた話と園で話した内容が180度違っており、保護者からの要望が園に集中してしまい訪問支援が苦痛に感じる。 ・以前の支援の方が博識で適切だったため、質を下げずに支援を続けてほしい。 ・訪問支援の日数を増やしてほしい。 ・予定を聞かずに訪問日を強く押され、行事との調整が大変だった。配慮してほしい。 ・カンファレンスが長く、もう少しコンパクトだと助かる。 ・事業者が変わり、保護者が不安を感じて園に相談することがある。引き継ぎを丁寧にしてほしい。 ・短い時間で多くの子を見ていただいているが、カンファレンスが押してしまい休憩が取れず申し訳なく感じる。 ・課題が明確に解消・軽減されたか判断しにくい。	いただいたご意見を踏まえ、今後は訪問支援の質と一貫性をさらに高めるため、助言内容の標準化と専門性の向上に取り組む。観察内容・課題整理・具体的な対応方法・次回までの見通しを明確に伝えることで、助言のばらつきを減らし、子どもの現状に即した支援が提供できるよう努める。また、一般的な説明にとどまらず、集団保育を活かした関わり方や環境調整、事例紹介、書籍・教材の情報など、保育現場で実践しやすい具体的な提案を充実させる。 さらに、園・保護者・事業者間の情報共有を強化し、説明内容が異なって伝わることのないよう、訪問前後の連携や担当者間の引き継ぎを丁寧に行う。保護者への説明と園への説明が一致するよう配慮し、三者が同じ理解を持てる体制を整える。訪問間隔が空きすぎることや連絡不足へのご指摘を受け、訪問スケジュールの事前共有や連絡体制の改善にも取り組む。 また、カンファレンスが長時間化し園務に負担が生じている点を踏まえ、時間管理を徹底し、必要に応じて訪問日の集約や事前調整を行うことで、園の負担軽減を図る。訪問回数や頻度についても、園のニーズを踏まえながら柔軟に検討し、支援に通えていない子どもへの対応も含め、より公平で効果的な支援体制を整える。 これらの取り組みを通じて、園・保護者・事業者が連携しながら、子どもたちの成長をより確実に支えられるよう、支援の質の向上に継続して努めていく。